

【意匠：論点】

【問題Ⅰ】

最高裁判決による物品の意匠の類似の判示と、意匠法における類似を判断する視点についての理解を確認する。

また、登録意匠同士の類似範囲が重なる場合、意匠法はどのようにこの状態を整理しているかの理解を確認する。

【問題Ⅱ】

意匠の新規性の喪失の例外（意匠法第4条、同法第60条の7）及び秘密意匠（同法第14条、同法第60条の9）について、意匠登録出願とハーグ協定のジュネーブ改正協定に基づく国際出願との手続の相違点を通して各制度の理解を問う。